

クローズ アップ⁺

本学教員の研究と、研究室を
それぞれ紹介します。

漢文を読む

～ 三千年の思考の深みへ～

国語教育講座 教授 橋本 昭典

外国語を理解することから 広がる世界

2020年代が始まりました。その始まりとともに、私が思い出したのは、あるアメリカの音楽グループの「20/20」という古いアルバムでした。今から数十年前、私が英語を習い始めた頃、英米の大衆音楽は光り輝いていました。繰り返し聴いても飽きることはない、その中に収録されている「Time to get alone」もそういう曲でした。中学生

の私にとって、歌詞の意味はよくはわからないのですが、タイトルや断片的に聴き取れる単語から想像をふくらませていました。今とは違い、歌詞を知るにはお小遣いをためてレコードを買うしか方法はなかったのです。そうして知った英語歌詞と日本語訳によって、当時の私の英語力をもってこの曲のタイトルから喚起されたイメージは見事に裏切られることになります。20/20のもつ意味もそうです。外国語を理解することに魅せられたのはこのときでした。

研究室のメンバーと





国際漢学翻訳家大会にて

ライフワークとしての 中国古典の翻訳

大学では未知の言語を学ぼうと中国語を専攻しました。講読が何より好きだったので、なかでも最も重厚なテキストを扱う経学を専門に選びました。経学とは儒教の經典の解釈学です。これについて語り出すととてもこの数ページでは収まりません。ここでは私が翻訳している『経学歴史』についてだけ触れます。この本は二千数百年にわたる經典解釈の歴史をまとめたものです。この翻訳には既に20年以上の歳月を費やしていますが、まだ完成していません。決して怠けているわけではありません。時間がかかるのです。一行を訳すのに丸一日かかることもしばしばです。というのは、その一行に二千年分の思考が凝縮されているからです。それを紐解くのに何冊もの本に当たります。恐ろしくコスパの悪い学問です。ちなみに元号は経学が生み出したものです。日本の元号もこれまではほとんどが儒教の經典から選ばれていました。

国際漢学翻訳家大会での 思い出

2014年、北京で開かれた「国際漢学翻訳家大会」という国際会議に参加しました。その会議は、中国の古典

をさまざまな言語に翻訳している世界中の翻訳者を中国側が招待するという素晴らしいものでした。私の発表では『経学歴史』翻訳20年の苦労話も交えました。発表が終わると北京大学の先生から、中国の学生も読まない本を日本語に翻訳してくれて本当にありがたい、と握手を求められました。ささやかですが、こうした共感が研究を進めていくうえで心の支えになります。

留学のすすめ

学生の間にぜひ実現してほしいのが留学です。留学は学生の間しかできません(社会に出て仕事を辞めるなどの一大決心をすれば別ですが)。学生時代の留学は大きく可能性を広げてくれます。私は台湾に留学しました。これまでの自分の人生を振り返ってみて、留学の一年間ほど楽しかったときはありません。何より日本を出て、初めてまともに呼吸ができたような気がしました。今はこうやって日本で暮らしていますが、当時はもうこのままここにしようと思っていました。そういう可能性が開けていることに希望を見ていました。





クローズアップ+

漢文学研究室で 達成できること

自分の理解のレベルが自分でわかるようになる。これがゼミの目標です。すべての物事にはどこまでも深い理解というのがあります。残念ながら、すべてにおいてその深みに到達することは不可能です。しかし、ごく限られた狭い範囲においてであっても深い理解に到達する経験をしておくと、他の理解レベルを相対化できます。今他人に教えている事柄を自分はどのレベルで理解しているのか。この自覚をもつことは人に何かを教えるときに教える側がもつべき責任だと思っています。

最後に今年在籍した6人の卒論のテーマを紹介しておきましょう。洪水を治めて中国全土を平定した禹は竜の助けを借りたか（平成という元号は禹の故事から取られています）/ 古代の夢占いが当たったのはなぜか/



授業の風景

紀元前に現代に通じる図書分類法を生み出し得たのはなぜか/ 古代にはどのようにして人体内部の理解を深めていったか/ 鎖国日本は不時漂着した外国人とどう接したか/ 水滸伝を江戸に広めた曲亭馬琴の奇策とは。以上のテーマにつき漢文を読みながら考え、局所的に深い理解に到達してくれました。

プロフィール



国語教育講座
教授 橋本 昭典
はしもと あきのり

1987年 神戸市外国語大学外国語学部中国学科入学。2004年 関西大学大学院文学研究科中国哲学史専修修了。博士（文学）。2004年 本学着任。2016年より現職。

ゼミ生からの研究室紹介

漢文学研究室では思想や文化など中国に関わることを幅広く研究できます。文献を読むときは当たり前だと思っていることを疑いながら、一つひとつを辞書や用例に当たりながら検討していきます。そのため、漢文が読めるようになるだけでなく、固定観念にとらわれない姿勢を身につけることができます。

ゼミは2つの形式で行っています。1つは所属ゼミ生が集まり、文献の調べ方や読み方を教わったり、各自の成果を全体で交流し、意見し合ったりするという形式です。もう1つは、個別で指導していただくという形式です。これは主に卒業論文作成時で、個々の研究内容に沿った丁寧な

指導を受けることができます。

漢文学研究室は、自分の知らない世界を知り、興味ある分野をとことん追求できる研究室です。



教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻
国語教育専修 4回生
大阪府立池田高等学校出身
つだ まほ
津田 真歩さん

